

98年来県 「優しく気さくな方」

27日に逝去された三笠宮さまは、スケートとフォークダンスを組み合わせた「スケートフォークダンス」を発案されたことでも知られ、1998年11月に全国大会が開かれた松山市を日本スケートフォークダンス協会総裁として訪れた。県

によると、記録が残る81年以降、県内への公式訪問はないが、競技を通じてお人柄に触れた県内の関係者は「優しく気さくな方で、まだまだ長生きされると思っていた」としのんだ。98年の全国大会に出場、恒例だった長野県軽井沢町

での合宿などで三笠宮さまと交流を深めてきた福岡牧子さん(78)「松山市高砂町3丁目。合宿では宿泊先も食事も全て同じ場所で「物事をはっきり言う人間味あふれる方で、ゲラゲラ笑うこともあった。『こうして皆さんとお会いできるのがうれしい』とおっしゃってくださった。お元気だと思っていたので寂しい」と涙ぐんだ。

「気品の中にも庶民感覚のある方だった」。県スケート連盟の金子公子会長(76)「同市白水台2丁目」は、三笠宮さまと会話や記念撮影を楽しんだ全国大会の夕食会を思い出す。

約40年前、三笠宮さまが



1998年に松山市であったスケートフォークダンス全国大会の夕食会に出席された三笠宮さま(中央)
福岡牧子さん提供

指導する関西でのスケートフォークダンスの講習会に参加。休憩時間に復習して

世界が沸く

MIURA

ミウラの環境技術を世界中へお届けしよう。

三浦工業株式会社

いると、三笠宮さまに「一緒に踊りましょう」と声を

掛けられ、2、3周しながらステップなどの助言を受けた。金子さんは、2人で写った写真を手に「まっすぐ背筋を伸ばし、滑らかなスケートやダンスを披露される姿はすてきだった。優しく温かい手は今も忘れられない」と語った。

全国大会で健康づくりに関する講演を行った松本陽子さん(78)「同市福音寺町」は、夕食会で言葉を交わし「初めて会う私にも身近に感じられた」と振り返った。

(菅亮輔)